

はじめに

Bipolar Disorder 研究会は早いもので、今回で第 10 回目の節目を迎えることとなりました。10 年前に本研究会が発足した当時、双極性障害に対する認識はそれほど高いものではありませんでしたが、この 10 年間に啓発が進んだことや、いくつかの薬剤が治療適応を取得したことなどから、双極性障害治療に対する関心はこれまでに高く高まってきたように思います。最近では、双極性障害において、パーソナリティ障害との関係や発達障害との関係が注目され、それらの障害と双極性障害をいかに鑑別するか、あるいは併存しているのかを適切に評価するといった診断上の問題がこれまで以上に重視されつつあります。加えて、わが国では双極性障害の過剰診断と過小診断の問題が同居しており、双極性障害の適切な診断がいかに難しいものであるかがわかります。本研究会でのディスカッションを通じて、このような双極性障害診療におけるさまざまな課題が改善されていくことを切に願っているところです。

さて、今回の研究会では、理化学研究所の加藤忠史先生を当番世話人として、第 1 部の教育講演と第 2 部の「気分安定薬の使い分け」をテーマとしたシンポジウムで構成いたしました。教育講演やシンポジウムにおいて、活発なディスカッションが展開され、実り多き研究会になることを期待しております。

なお、本研究会は節目となる第 10 回目を迎えました。世話人会におきましてさらに 5 年間継続することが了承されました。共催いただいている協和発酵キリン株式会社には、心より感謝と御礼を申し上げます。

国立精神・神経医療研究センター
樋口 輝彦

目次

はじめに3

国立精神・神経医療研究センター
樋口 輝彦

第1部/教育講演

双極性障害の生物学的研究—最近の進歩11

理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム
加藤 忠史

双極性障害に対する対人関係・社会リズム療法41

水島広子こころの健康クリニック
水島 広子

第2部/シンポジウム

気分安定薬の使い分け

双極性障害の多様性:混合状態に焦点をあてて57

大分大学医学部精神神経医学講座
寺尾 岳

双極性障害維持期の薬物療法に関する68

最近の知見—「エビデンス」を診療に活かす

名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
尾崎 紀夫

躁病エピソードの薬物療法82

広島大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経医科学
岡本 泰昌

双極性うつ病の治療97

東京女子医科大学東医療センター精神科
山田 和男

双極性障害治療における抗精神病薬の役割112

九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野
川崎 弘詔

総合討論133

おわりに139

近畿大学医学部精神神経科学教室
白川 治